

大学教員

光の方へ、自分の心の声を聴きながら！

眞中裕子（日本大学短期大学部ものづくりサイエンス総合学科 助教）

仕事の内容とやりがい

非常勤講師をしていた時は将来の不安はありましたが、自分のペースで学生に合わせて講義ノートを書いたりと研究のリサーチに集中し、また共著で教科書を出版することが出来たり海外の国際会議で論文を発表する事もできたりと、ワクワクする経験が出来ました。現職についてからは理工学部との委員会に関わる事で視野が広がり人として成長させられています。また大学から経済的なサポートを受けて世界の研究者達と接する機会も増え、勇気と励ましを与えられています。

進路決定のきっかけ

教職を取り中・高校の教師となるつもりでしたが卒業間際まで悩んだ末、もう少し数学を学びたいと修士課程に進学する事を決めました。進学後、ある先輩の死をきっかけに、数学の道で退くより一歩踏み出す人生を選びたいと思うようになりました。自分の研究したい対象との出会いもあり、研究者として自立したいと博士課程に進学する決意をしました。

仕事と家庭／生活のバランス

大学院進学後は父が脳梗塞を繰り返し母中心に介護を担う状況になり、研究を優先する事が困難な時期もありましたが、大学の非常勤講師や進学塾の講師をしながら、数学を教える喜びや研究に関する本や論文を読んで新しい知識に出会う喜びが支えとなりました。今は離れて生活している高齢の母が元気でいてくれるので、仕事と研究に進進できる状況を感じています。独身なので挑戦したいと思ったら何処でも出かけて行ける立場を楽しんでいます。

進路選択に対してのメッセージ

人生には環境が整えられている時期も困難を背負う時期もある。人によってその巡り合わせはさまざまです。困難に思える道でも時が良い環境に変えてくれることもある。遠くに光を見ながら静かに自分の心の声に耳を傾けて下さい。目の前の一つ一つを大切に、成すべきことに集中して行けば、時至って道が開かれ道が出来て行く。女性には復活の力もあるのです！

◆プロフィール

東京都立国立高等学校卒→津田塾大学学芸学部数学科卒→津田塾大学大学院理学研究科数学専攻修士課程修了→慶応義塾大学大学院理工学研究科数理科学専攻博士後期課程単位取得退学→日本大学短期大学部・横浜国立大学（理工学部、経営学部）・慶応義塾大学（商学部）非常勤講師・東京工業大学大学院情報科学研究科研究生→博士（学術）取得→現職



継続は力なり！「好きなこと」は続けるべし

浅野早苗（日本大学生物資源科学部動物資源科学科 助教）

仕事の内容とやがい

研究室の大きな課題の1つが「反芻動物を中心とした草食動物の飼料利用特性」で、対象動物は牛や山羊などの反芻家畜に留まらず、テングザル、モウコノロバ、ゾウなど幅広く扱っています。動物は生存にエネルギーと栄養素を必要としており、長い年月をかけて各々の採食戦略を獲得してきました。それぞれの進化的背景を持つ動物を栄養学的に比較する作業は、大学以外の研究施設ではなかなかできないことの1つだと思います。

進路決定のきっかけ

学部時代、野生動物に興味があり、知床の羅臼町で自然保護ボランティアをやったりしました。反芻動物と同様に複胃のクジラの消化試験をやりたいかったのですが、当時は無理と言われ、とりえず動物栄養学の基礎を身に着けようと一歩踏み出しました。大学院ではできることとやりたいことの摺合せを行い、二ホンジカの消化性について取組もうと決めました。進学先の先生は反芻動物の栄養分野の偉い先生でしたが、対象は牛を中心とした家畜。シカに拘る私をよく引き受けてくれたと今なら思います。

仕事と家庭／生活のバランス

家族構成は夫と息子1人にお猫様1匹です。夫とお猫様は仕事の関係で別居しています。息子は今年小学1年生になり、短時間の留守番や簡単な手伝いができるようになった一方で、勉強や弁当、小学校からのお叱りの電話…等々新たな頭痛の種が生じるようになりました。俗にいう「小1の壁」というやつです。平日の夜、息子はほぼ実家で過ごします。学童のお迎えから宿題、夕食、お風呂…とスーパー育館の父が中心になって面倒を見てくれます。実家のサポートなしでは現在の生活は成り立ちません。

進路選択に対してのメッセージ

自分に与えられた環境では、興味の有無に関わらずベストを尽くすこと、一方でやりたいことはライフワークとしてでも続けるのが大事だと思います。どこで何が繋がるかは分かりません。興味はなくなるとも努力したことは後々実を結びます。また「好き」を職業にできるかどうかは縁や運に左右される面もありますが、好きなことに関わり続けるのは誰にでも可能です。思い描いた夢とは異なっても、後向きにならずに好きなことは続けて下さい。夢は形を変えて、あなたの道を開いて行ってくれるはずです。

◆プロフィール

神奈川県立湘南高校卒業 → 日本大学生物資源科学部動物資源科学科卒業 → 東京農工大学大学院農学研究科生物生産科学専攻修了 → 東京農工大学大学院連合農学研究科生物生産学専攻修了(農学博士) → 東京農工大学特別研究員 → 神奈川県畜産技術センター臨時技師 → (独)家畜改良センター技術職員 <第1子出産> → 日本大学生物資源科学部助手 → 現職



大学教員

「細く長く」続けていきましょう。

麻生久美子（日本大学生物資源科学部国際地域開発学科 専任講師）

仕事の内容とやりがい

「途上国など世界中のどこに行っても英語を使ってコミュニケーションが取れる」という国際地域開発学科の学生の育成に携わっています。私の専門は英語教育を含む教育全般で、特に日米比較教育、多文化教育を研究しています。これまでの小学校から大学レベルまでの教員経験から、常に私は「教育」現場の前線生きてきたと言えます。故に「先生」であること、そしてそのための研究や勉強を日々怠らず、続けていくことが自分の人生だと感じています。

進路決定のきっかけ

大学卒業後、東京都公立中学校英語科教員になりました。そこで鍛えられ、多くの生徒と接し、また素晴らしい同僚の先生方にも出会うことができました。ただ、教育分野での学びを深めたくなり、東京学芸大学の大学院で学び修士号を取得した後、教員を辞して渡米し、教育課程や比較教育などの教育分野で修士号と博士号を取得しました。アメリカでは3つの州の大学院に通い、各州の独自性に触れアメリカの多様性を実感しました。帰国後は大学レベルでの教育に携わり、現在に至っています。

仕事と家庭／生活のバランス

女性は人生のイベントにより、生活が環境に左右されることが多いと思います。私も当初、大卒数年後に留学を計画していましたが、留学どころか結婚が決まり、人生が大きく変わりました。31歳で思いがけない大病にも見舞われました。人生は計画通りに行く可能性などほとんどゼロに近いと思い知りました。私は常に「結果オーライ」で行こうと心に決めています。出た結果、つまり「今」がベストであると信じるのが、私生活と仕事を両立させる秘訣だと思います。

進路選択に対してのメッセージ

私の研究分野では、教育現場に出ること、現場を知ることが重要なことと私は考えており、自らの現場でのこれまでの経験が、研究者としての自分の大きな「強み」だと思っています。そのような自分の強みに気づけたのは、場や環境は変わっても長く「教員」として生きてからだと思います。故にこれからの皆様への私からのメッセージは、「どのような曲がり角に出会っても長く続けてくださいね」ということになりましょうか。

◆プロフィール

私立恵泉女学園高校（東京・世田谷）卒業→中央大学文学部文学科フランス文学専攻→東京都公立中学校英語科教員→東京学芸大学総合教育学部多言語多文化教育コース修士号取得→アメリカ・ミシガン州アナーバー・ミシガン大学にて修士号取得→ニューヨーク州ニューヨーク・コロンビア大学ティーチャーズカレッジにて修士号取得→ミネソタ州ミネアポリス・ミネソタ大学にて博士号取得。在米中の職歴としてミシガン大学アジア文学・言語学部にて日本語科専任講師。帰国後、いくつかの大学での非常勤講師を経て、現職。



己に向き合い、自分の人生を。

井上菜穂子（日本大学生物資源科学部海洋生物資源科学科 専任講師）

仕事の内容とやりがい

大学院修士課程を卒業後、理化学研究所に就職。その後、任期制研究職を歴任した。任期付の研究課題に集まったのは年齢の近い研究者。みな専門分野が違い、日々切磋琢磨して研究ができた時間は、自分の視野を広げるのに大変有用な一時だったと考える。一方、数年で任期が切れてしまうため、一つの研究テーマにしっかり向き合う、という環境ではなかった。日本大学に移ってからは、これまで培ってきた研究手法を用いて、一つのテーマを深く掘り下げた研究をするべく、充実した研究生活を送っている。

進路決定のきっかけ

大学では農学部に進学したが、進学時に将来の進路が定まっていなかった。大学在学中も進路決定がうまく進まず、大学院受験しながら就職活動もしていた。大学院に進学してやっと、「実験」をすることが好きだ、ということを実感できたが、自分で考え進めていく「研究」が自分にはできるかどうか自信がもてなかった。そのため博士課程には進まず、就職した。その後、研究員として働いていく中で、自分なりの「研究」の方向性が定まってきて、博士の学位を取得した。その都度相談に乗ってくださった同僚・上司・恩師には感謝しかない。

仕事と家庭／生活のバランス

夫とは、修士課程を修了と同時に結婚した。20代はお互い仕事楽しく、それぞれの仕事に進進する生活で、夫の転勤に伴って3回ほど転職した。転勤があっても、任期制研究員の場合簡単に転職先が見つかるので、その点は気楽だった。30代になって子供ができてからは、拠点を固定することで意見が合致し、現在の職に落ち着いていた。現在子供は保育園児でまだまだ手がかかる時期ではあるが、家族や職場の協力などもあって乗り切っている。若い女性研究者の良いロールモデルになるためにも、仕事と家庭のバランスについては真剣に考えて前向きに行動しているつもりである。

進路選択に対してのメッセージ

無駄なことや失敗をせず、最短ルートで人生を進進することが素晴らしい人生だろうか。人によってそれぞれ「最良の道」は異なります。現状に悲観してばかりの人生はつまらない。幸か不幸かは、その人の心の中にある、そう信じています。失敗から学べることがたくさんあります。自分の決定した進路が本当によかったのか、心配になるのも当然だと思います。そこで大いに悩むことで、「自分だけの人生」が導きだされる気がしています。人生の先輩達の意見に耳を傾けながら、己にとことん向き合い、自分だけの進路選択してください。

◆プロフィール

筑波大第二学群生物資源学類 → 筑波大大学院バイオシステム研究科修士課程修了く結婚 → 理化学研究所テクニカルスタッフ → 自然科学研究機構岡崎統合バイオサイエンスセンター専門研究職員 → 浜松医科大学医学部解剖学講座特任助教 → 首都大学東京人間健康化学研究科特任助教 → 現職



大学教員

行動が未来を拓く、心の声も大切に！

久保田裕美（日本大学生物資源科学部食品ビジネス学科 専任講師）

仕事の内容とやりがい

一番のやりがいは、未来の「食」を創る仕事に携わることができているということです。「食」は、身体への栄養だけでなく、心の栄養としてもとても大切なものです。これからの「食」のあり方は、時代と共に変化していきます。学生との日常のコミュニケーションやゼミでの議論を通じて、また、食料や食生活に関する地域社会での実証研究を通じて、社会的視点から、「豊かな食」とは何か、それを実現するためにはどのような社会的環境や条件が必要であるのかを追求していきたいと思っています。

進路決定のきっかけ

学部時代にアメリカに留学し、現地の食品企業でインターンシップをしたことが進路決定の原点です。帰国後、大学4年生に復学し、就職か大学院進学かで迷いましたが、アメリカで感じた「自国の食料・農業のことについてもっと深く知りたい」という気持ちが強く、大学院に進学しました。学部で化学を専攻していたこともあり、栄養学や農学を考えましたが、いろいろな研究室を訪問し、先生や先輩から直接にアドバイスを受け、最終的に人や社会と関わりたいと思い農業経済学を専攻しました。

仕事と家庭／生活のバランス

以前は、片道2時間の長距離通勤をしていましたが、東日本大震災の後、仕事と家庭のあり方について考え、現在は、大学に近い市内に住んでいます。職住接近とはいえ、夫や家族の協力なくしては、仕事も家事もできません。長女は9歳、震災当時お腹にいた次女は6歳、長男は3歳になりました。子どもたちが時々書いてくれる小さな手紙も、心の大きな支えとなっています。家族、恩師、職場の上司、先輩、友人など、これまで本当にたくさんの人々に助けられ、現在にいらっています。

進路選択に対してのメッセージ

自分の興味や好奇心のアンテナを大きく伸ばすことが未来を拓くきっかけになると思います。私は、大学3年の秋に、学内で「海外留学奨学生募集」案内を見たことが、大きなターニングポイントになりました。普段から「海外へ行き、外の世界から日本を見てみたい」と思っていたからこそ、廊下の一枚のポスターが目にとまったのだと思います。情報をつかんだら、次は行動です。きっかけ（チャンス）に気づくアンテナを持ち、小さなことでも行動してみることで、新しい世界に出会えるかもしれません。

◆プロフィール

東京都立高校卒業→日本大学文理学部化学科→休学、アメリカワシントン州にインターンシップ留学→復学後卒業→東京農工大学大学院国際環境農学科→アメリカカリフォルニア州にNPO短期インターンシップ留学→東京農工大学大学院連合大学院農学研究科博士課程修了（博士（農学））→NPO団体勤務→民間研究機関 研究員→第一子誕生→日本大学生物資源科学部→第二子、第三子誕生→現在



大学教員

しなやかに逞しく生きよう！

熊谷日登美（日本大学生物資源科学部生命化学科 教授）

仕事の内容とやりがい

主な仕事は教育と研究で、学生達が成長していく様子を見ることが、新たな研究成果を出すことにやりがいを感じています。食品科学分野の魅力は、日々の食生活で疑問に思ったことが研究に生かせ、また、研究で得た知見が日常生活に生かせるということです。これまでに、食品による骨粗鬆症、アレルギー、血栓症、糖尿病、癌などの予防に関する機能性研究を行ってきました。美味しく、かつ、病気予防効果を持つ食品を作り、人々の豊かな食生活と健康の維持に役立つことができればと願っています。

進路決定のきっかけ

大学受験では進路を絞れず、食物学科、数学科、薬学科を受け合格しました。このうち、薬学科にしようと思い、高校の担任の先生に連絡をしたところ、翌日、中学の時の担任の先生から電話があり、食物学科を薦められました。食物学科4年次に、研究室の先生から大学院進学を薦められたため、中高教員の内定を辞退し、大学院に進みました。修士課程修了後、さらに研究をしたいと思いましたが、その研究室では博士課程の学生を受け入れていなかったため、別の大学の博士課程に進学しました。

仕事と家庭／生活のバランス

研究室の先輩と博士課程2年の時に結婚しました。結婚後は大学の近くに住み、研究に没頭する毎日でした。博士課程修了後、娘が生まれ、これを機に夫の実家に引っ越ししました。子供が小さいうちは、家族や親戚に育児を手伝ってもらいました。また、イギリスに1年間、子連れで留学した時は、両親や姑が交代で一緒に住んでくれました。子供が小さい頃は、家事・育児に割くエネルギーが大きく、仕事は何とか続けているという状態でしたが、今は、仕事の比重が大きくなってきました。

進路選択に対してのメッセージ

楽天家で、粘り強く、素直で、論理的であり、前向きに行動する人は、研究者に向いていると思います。また、何事もしなやかに対応すると、自然と道が拓けていきます。家庭を持ちつつ仕事をしようと思っている人へ、恩師からの教えをお伝えします。「女性の人生は相手によって影響を受けやすいので、選ぶ時には慎重に」、「子育ての時期も経歴を途切らさないことが大切」、「子供への愛情は、言葉と身体で直接表現」、「家庭円満のことは、ストレスを家に持ち込まないこと」。

◆プロフィール

フェリス女学院中学・高校卒業 → お茶の水女子大学家政学部・食物学科卒業 → 同大学大学院修士課程修了 → 東京大学大学院・農学系研究科・農芸化学専攻 博士課程修了 → 第1子出産 → 日本大学生物資源科学部・生命化学科（旧 農獣医学部農芸化学科）助手 → 第2子出産 → 講師 → 英国ノッティンガム大学研究員（子供二人を連れて渡英、両親と姑が3ヶ月交代で計6ヶ月ずつ滞在） → 准教授 → 現職



大学教員

ロールモデルとなる方々と出会える幸運

近藤春美（日本大学生物資源科学部くらしの生物学科 専任講師）

仕事の内容とやりがい

子供の時から美味しいものを作ることや食べることが好きで、大学時代は食品化学研究室に所属していました。大学院で赤ワインポリフェノールが動脈硬化を抑制することを初めて科学的に証明した研究室に入室したのを機にポリフェノールの虜になり、現在もこの研究を継続しています。まだコーヒーが体に良いとも悪いとも分からない時に、コーヒーポリフェノールの抗動脈硬化作用を初めて科学的に証明できた時は大変嬉しかったです。今後も食品による健康長寿に貢献できたらと思っています。

進路決定のきっかけ

小学生時代に感銘した詩人宮澤賢治と同じ農芸化学科に進学して、人の役に立つ研究者になりたいと思っていました。学部入学当初は、賢治のような土壌学者を目指していましたが、丁度食品の機能性が唱えられはじめた時期で、食品学をご指導して下さった熊谷先生に憧れをもったこともあり、食品化学研究室に所属しました。経済的理由から学部を卒業後は理化学メーカーへ就職して3年が経過した時、身近で食習慣が死に直結する大変悲しい経験をし、やはり人の役に立てる研究者になりたいと思い、一念発起して大学院博士後期課程まで迷わず進学致しました。

仕事と家庭／生活のバランス

私の場合は、学生のうちは結婚しないで研究だけに打ち込むと決め、博士後期課程修了翌年に結婚しました。結婚後も新しい職場に着任したばかりで産休育休はとれないと遠慮をしました。幸運にも着任後3年目で先出のコーヒーの論文をだすことができ、時を同じくして娘を授かりました。今となっては、遠慮はほどほどでよかったのかなと思います。公的機関の研究者である夫は公私ともに良きパートナーで、研究をはじめ、家事や育児もお互いに協力しあって乗り切っています。

進路選択に対してのメッセージ

ロールモデルとなる方々と出会うと、5年後10年後に自分がどうなっていたいのかを意識でき、目標が見えてきやすいと思います。欧米諸国に比べ日本ではまだまだ理系の女性研究者は少ないと思いますが、研究するうえで女性であることのハンディは感じません。興味がある人は是非目指してほしいです。

◆プロフィール

福岡県私立女子高校→日本大学生物資源科学部・農芸化学科（現：生命化学科）卒業→理化学メーカー勤務→お茶の水女子大学大学院・博士前期課程修了→同大学院・博士後期課程修了、博士（理学）→お茶の水女子大学生活環境研究センター講師→結婚→防衛医科大学校内科学講座・助手→出産→防衛医科大学校内科学講座・助教→現職



やりたいことを伝えよう！

清水みゆき（日本大学生物資源科学部食品ビジネス学科 教授）

仕事の内容とやりがい

卒論のテーマに「公害史」を選んではからは歴史分野の研究が中心でしたが、現在の職に着いてからは食料経済学の分野が中心になっています。大学院卒業後は研究機関のプロジェクトの中で膨大な歴史統計を扱っていました。プロ意識を持った年配のパートの方が大勢働いていて、自分の若さや、単なる駒、といった感覚も味わいましたが、後から考えると研究遂行のため、または組織で働く為のコミュニケーションの取り方はこの時学んだように思います。自分の視点（食品・公害被害者の真の救済とは）が揺らがなければ、どの仕事も課題解決に向けた情報収集に繋がりが、やりがいがあります。

進路決定のきっかけ

公害史との接点は何と言っても現在の足尾銅山です。学生時代、サークル仲間とよく自然観察、動物観察に行きました。野生動物を直に観察する事ができるこの山は、公害の影響で禿げているからこそ、より良く対面の山の動物の動きが観察できます。その不自然な自然観察から、その歴史もしっかりと把握しておこうと思いました。そして、戦後も何度となく繰り返される公害事件を知るにつけ、移住させられた方々の歴史を繋いで行くことの必要性を強く感じました。

仕事と家庭／生活のバランス

夫は国立大学の教員ですが、私学より多少ゆとりもあったせいか、家事、育児全般にとっても協力的です。双方とも実家が遠方のため、ハウスキーパーを頼むか、自分たちでやり繰りするか（こちらを選びました）、といった議論もしました。子どもは家事好きに育ったようです。仕事と家庭のバランスの取り方は下手な方です。趣味は仕事か家事か、というのが現実です。ただall or nothingなので、家ではもっぱら読むばかり。職場と自宅が1時間近く離れているので、その時間内に片付けられる仕事を電車内に持ち込み、効率性良くこなす、というのが得意です。

進路選択に対してのメッセージ

自分は何をしているときが楽しいのか、そこを起点とすることがまず第一でしょう。それが一見職業に結びつかないように思われても、所詮は人間の能力の範囲内なので、きっと職業に結びつく進路が発見できるでしょう。または、多様にある選択肢を自ら閉ざさなければ、出会うべきタイミングで、出会うべき何かに行き当たる、というのが私のこれまでの経験でした。そして、そのことを家庭や学校で誰かに相談してみる事です。言わなければ道も拓けません。伝える事を躊躇する事だけはやめましょう。

◆プロフィール

県立高校卒業→日本大学農獣医学部（現生物資源科学部）食品経済学科卒業→千葉大学大学院・自然科学研究科生産学専攻 博士課程＜結婚＞修了（博士（農学））→一橋大学経済研究所 助手→文部省（当時）統計数理研究所調査実験解析系講師→日本大学生物資源科学部 専任講師＜第一子出産＞→現職



大学教員

There is always another way!

上村真由子（日本大学生物資源科学部森林資源科学科 准教授）

仕事の内容とやりがい

大学での仕事は、教育と研究になります。教育では、授業や学生さんの卒業研究のサポートをします。研究室の学生さんから、日々多くの力をもらっています。研究では、森林の物質循環を調べるために野外の調査地に入り、データを取っています。特に着目しているのは、樹木が枯死して分解される過程で、私にとってとても興味深いものです。おもしろいと思えることを仕事にできたことは本当に喜ばしいことです。

進路決定のきっかけ

子供の頃は研究者にあこがれていましたが、大学を出る頃には公務員になろうと考えていました。しかし、修士課程卒業時には進路が決まらず、博士課程に進むことに。そして始めた研究がとてもおもしろく、とりえず博士課程を終えようと頑張ることに。思えばこの時期が私の進路を決め、鍛えられた日々でした。博士を取得した後はポストドクターという身分で4年を過ごしましたが、最終的に現職に就けたのは、いろいろなご縁によるものでした。

仕事と家庭／生活のバランス

現在は0歳と3歳の子供がいます。昼間は保育園に預けていますので、普通に仕事ができますが、帰宅時間は厳守。職場を離れてから子供達が寝るまでの間は家のことに追われます。家族が寝ている間のみが自分の時間ですので、その間に仕事をします。朝になって子供達が起きれば保育園に預けるまでまた家のことに追われます。その繰り返しを続けていけば徐々に子供も大きくなり、少しずつ自分の時間が増えるのだと思います。

進路選択に対してのメッセージ

キャッチフレーズの意味は、価値観を広げて他の選択肢も探してみてもいい、ということです。私はポストドクターの時に将来について不安になりました。今思えば、価値観の幅を自分で狭くしていたのでしょう。不安な時であっても前向きに考えれば、進路は自ずと開けてきます。その時に大事なのは自分を支えてくれる人たちです。運動でストレスが発散されるなんてまやかして、人と話してこそ気が晴れるものだと言ったことがあります。落ち込んでいる時も元気な時も人と話すことが大事なのかもしれません。

◆プロフィール

京都女子中学・高校卒業→神戸大学農学部植物資源学科 卒業→同大学大学院自然科学研究科修士課程修了→同大学大学院同研究科博士課程 修了→同研究室において教務補佐員を約2年→（独）農業環境技術研究所大気環境研究領域においてポストドクを約2年→日本大学生物資源科学部森林生態学研究室助手→同研究室助教→現職＜結婚・第一子、第二子出産＞



興味あることにチャレンジ！

新町文絵（日本大学生物資源科学部くらしの生物学科 教授）

仕事の内容とやりがい

私の専門は植物栄養生理学で、特に養分吸収や体内代謝に興味があり、最近は植物の養分吸収能を利用した機能性農作物についての研究を始めました。研究テーマの自由度が高いことは大学教員の魅力の一つだと思います。大学教員の主な仕事は研究と教育ですが、それ以外に社会活動、組織運営、後進の育成も大事な仕事です。年齢や職分が上がると、自分の研究や学生教育以外の仕事が増えてきますが、なるべく広い視野をもって何事も前向きに取り組むようにしています。

進路決定のきっかけ

事務職よりは補佐的な仕事でもよいので研究に携わりたいと思い、大学院へ進学、研究が面白いと思う一方で研究職への漠然とした不安を感じていました。その頃に母校で理科の非常勤講師をする機会を得て、教員になるのも良いかなと思い始めた頃、教科書に知り合いの先生の研究が紹介されているのを見つけました。その時、私は誰かのやった研究を生徒に教えるのではなく、自分が研究したいことに気づき、研究者になることを決めました。現在は、大学教員として研究と教育の両方が仕事になりました。

仕事と家庭／生活のバランス

大学院生からポスドクの頃は休みもほとんどなし、朝から晩まで研究室にいるような生活を送り、その後に大学教員になっても同じようなものでワークライフバランスとは程遠い状態でした。しかし、大学の海外派遣研究員として英国に1年間滞在する機会を得て、そこで皆が仕事をしっかりした上で、休暇や家族との時間を楽しんで生活しているのを見たとき、自分の生活スタイルを反省しました。まだまだワークライフバランスはうまく取れませんが、仕事以外の時間も大切にするように心がけています。

進路選択に対してのメッセージ

私は、自分の将来に向けての強い気持ちや目標がなかったので、進路選択にあたっては、自分は一体何がしたいのか、何が出来るのか、いつも悩みながら進んできました。そんな私の背中を押してくれているのは「チャレンジせずに“やればよかった”と思う後悔より、チャレンジして“やらなきゃよかった”と思う後悔の方がいい。」という恩師の言葉です。経験を積むことは選択肢が広がることでもあります。色々なことをやってみて、自分が楽しいと思うこと、興味がわくことを見つけてください。

◆プロフィール

日本大学櫻丘高等学校→日本大学農獣医学部・農芸化学科(現、生物資源科学部・生命化学科)卒業→日本大学大学院・農学研究科・農芸化学専攻博士前期課程修了・修士(農学)→同大学院博士後期課程修了・博士(農学)→岡山県生物科学総合研究所・流動研究員→帝京科学大学大学院・バイオテクノロジー研究センター非常勤職員→日本大学短期大学部・農学科(後に生物資源学科)助手→同・専任講師→同・准教授→日本大学生物資源科学部くらしの生物学科・教授(現職)



大学教員

迷走しながら鯨類研究をする

鈴木美和（日本大学生物資源科学部海洋生物資源科学科 准教授）

仕事の内容とやりがい

私は鯨類を主な対象として、学生たちや共同研究者たちとともに、海に適応した彼らの体のしくみを紐解くことを仕事としています。講義やその他の大学業務も仕事の範疇です。生理学とは個体の生命現象を機能面から追究し、体の調節機構を明らかにする分野ですので、体が大きく、動物実験をしにくい鯨類の生理学を行うことは色々な意味でチャレンジングです。しかし、制限がある中でどのように研究を展開するのか、研究の意義は何なのかを考えながら手探りで進むのも楽しいことです。

進路決定のきっかけ

私はいわゆるリケジョでもなく、就職について深く考えたこともなく、研究者になるとは全く思っていませんでした。鯨類の研究をしたいと思ったのは、最初の大学（文系）の3年の秋でした。きっかけは偶然、イルカ研究を紹介していたテレビ番組を見たことです。イルカにも興味が湧きましたが、それよりも紹介されていた海外の研究者たちが眩しく見えて、その道に入ってみようと思えました。多くの方々に助言を頂きながら鯨類研究をできる道を探り、信頼できる方々に出会って研究を始めました。

仕事と家庭／生活のバランス

研究を始める前は研究者という職業に華やかなイメージを抱いていましたが、実際にやってみると研究は地味な作業の連続でした。生業として研究を続けるためには、心身ともにバランスを整えながら、日常的な活動として研究に取り組む必要があると感じています。若い頃のような無理が利かない今は、仕事の時間は集中し、それ以外の時間ではオフモードにすっぱり切り替えるようになりました。美味しいものを食べ、観葉植物を愛でながら、家族と過ごす時間ひとりでも過ごす時間も楽しんでいます。

進路選択に対してのメッセージ

ロールモデル集の中で言うのもなんですが、私は紆余曲折を経て現在の仕事に辿り着いたため、「出来るだけ早いうちから進路について考える」や「多くの職業を調べて知っておく」などの必要性はさほど感じません。それよりも、自分の可能性を狭めないために学力を含めた「力」を身につけること、何事にも意欲的に取り組む姿勢をもつこと、自分の意志と責任において自分の道を選択して進むこと、支えてくれている人々への感謝を忘れないこと、などが大切だと思います。Just do it!

◆プロフィール

高校卒業→お茶の水女子大学・文教育学部→東京大学・農学部→東京大学大学院・農学生命科学研究科 博士課程修了(農学)→水産庁中央水産研究所 博士研究員→日本大学生物資源科学部・海洋生物資源科学科 助手→専任講師→現職



今の特技が将来、役に立つかも？

園原和夏（日本大学生物資源科学部森林資源科学科 専任講師）

仕事の内容とやりがい

専門は「森林経営」・「森林計画」で、森林を長期的・広域的な視点で捉え、その適切な管理のあり方について考える分野です。フィールド調査も行いますが、広大な森林の全体像を把握するために、航空機やドローンなどで撮影した空中写真を活用することもあります。森林データをどうやって得るのか、得た成果をどのように森林管理に活かすのかを考えるのがこの分野の面白いところです。自分が目指す目標に向かって進んでいける職場というのは、大学・研究機関ならではのと思います。

進路決定のきっかけ

もともと研究に対して漠然とした憧れがありました。研究室に早めに入り、先輩の研究の手伝いをしたり、4年生のときには学会発表も経験しました。1つのことに熱中するタイプだったので、コツコツ作業をすることやあれこれ考えることは楽しく感じました。また、出会いの場、挑戦の場としての大学は素敵だなと思いました。大学院では後輩に教える機会が増え、知識や技術を学生にどのようにわかりやすく伝えるかを工夫することも楽しくなり、大学で教えることを意識するようになりました。

仕事と家庭／生活のバランス

「仕事と家庭」のバランスは、「仕事と健康」のバランスでもあると思います。家庭は健康を支える基盤です。家は夫婦にとっての癒しの場になるよう心がけています。夫婦での家事の分担は特に決めていません。余裕のある方が、できることをするようにしています。お互いに毎日忙しいですが、夕食の時間は大切にしています。おいしいものをしゃべりしながら食べるのがいいですね。2人で協力して夕食を作ることも多いです。時短になるし、話しながら料理するのも楽しいです。

進路選択に対してのメッセージ

大学や大学院で習得した専門的な知識・技術・経験はもちろん重要なのですが、昔から得意だったことに今でも意外と助けられています。例えば、「絵を描く」特技は講義やプレゼンの資料、広報の仕事などで役立っていますし、中学・高校のときにテニス部で鍛えた体力・筋力もフィールド調査に役立っています。好きなこと・得意なことは思わぬところで自分の武器になると思います。今だからできることや好きなことも大切にしてください。そうした「引き出し」が、将来きっとあなたの強みになります。

◆プロフィール

東京都立高校卒業→日本大学生物資源科学部・森林資源科学科卒業→同大学院・生物資源科学研究科・生物環境科学専攻博士前期課程修了→同・博士後期課程修了、博士（生物資源科学）取得→日本大学生物資源科学部・森林資源科学科・助手→現職



大学教員

耳学問ノススメ！

谷米温子（日本大学生物資源科学部食品ビジネス学科 専任講師）

仕事の内容とやりがい

1年間短大の助手として、実験や教室事務を経験し、現職では様々な実習を担当させていただき、新しい分野を勉強する機会を得て、学生と一緒に成長していきたいと思いながら日々の仕事に励んでいます。学生時代から高齢社会で問題となっている嚥下（食物を飲み込むこと）について研究しています。多くの人が口から食べられるような食品を明らかにするために、食品の物性と嚥下との関係を調べています。自分の結果が誰かの笑顔につながるという思いが研究の力になっています。

進路決定のきっかけ

小さいころから食べることに興味があり、大学受験の時に資格が取れたほうが将来役に立つと考え、管理栄養士専攻に進学しました。勉強の内容は面白かったのですが、病院実習に行き、栄養士が自分のやりたいことではないと感じました。同級生が栄養士への就職を考えながら卒論を選ぶ時に、興味のある勉強ができることを考え、現在のテーマを選択しました。研究室を通じて多くの活躍する女性に出会いたくさんのお話を伺う機会があり、研究だけでなく、人生について学ぶことができました。

仕事と家庭／生活のバランス

現職中に妊娠、出産しました。妊娠中や子供が生まれてからも周りの先生方や学生の協力のおかげで「育児・育自」ができていて感謝しています。夫は育児や仕事をするに対して理解をしてくれていて、支えてくれています。諸先輩からのアドバイスを実践しながら、精神的に支えられて仕事をするのでできています。また男女共同参画推進委員会では保育を担当し、環境整備を進めると共に、様々な環境でお仕事する先生方のお話を聞きながら参考にしています。

進路選択に対してのメッセージ

何かを選択する時、自分の判断が正しいのか迷ってしまうこともあると思います。そんな時、これまで人から聞いてきた話が大変役に立ちます。話を聞いた時は自分には当てはまらないと思っていても、どこか何かのタイミングで当てはまる瞬間があります。最終的に自分で決めたことには責任を持つのは当たり前ですが、迷ったときはこれまでに聞いてきた話が、違う選択肢を教えてくれたり、背中を押してくれました。たくさん話を聞いて、自分の選択の幅を広げてください。耳学問、おすすめします！

◆プロフィール

東京都私立高校 卒業→共立女子大学家政学部食物栄養学科 卒業→共立女子大学大学院家政学研究科人間生活学専攻博士前期・後期課程 修了、博士（学術）→日本大学短期大学部応用化学学科 助手→〈結婚〉日本大学生物資源科学部食品ビジネス学科 助手・助教→現職〈育児しながら育自中〉



努力を怠らず、自分を信じる

福澤めぐみ（日本大学生物資源科学部動物資源科学科 専任講師）

仕事の内容とやりがい

大学教員として教育と研究に携わっています。教育では、自分の研究テーマ（コンパニオンアニマルの行動や学習）に関心を持ってもらえたらと期待しながら、講義や実験実習、卒業研究を指導しています。研究は、主にイヌの学習やヒトとの生活におけるイヌのストレス等を行動学的ならびに生理学的に評価しています。また、研究室では保護したイヌたちのトレーニングや里親探しも行なっています。研究室の学生さんやイヌたちに囲まれて、とてもやりがいのある楽しい日々を送っています。

進路決定のきっかけ

大学で所属した研究室でイヌの言語認知について行動学的に評価・研究を行い、イヌの訓練技術につながる研究を続けたいと思うようになりました。その後、留学先したイギリスの大学院では研究課題だけでなく、問題行動治療について学ぶ機会に恵まれました。帰国後も大学院に在籍しながら、研究と並行して警察犬や家庭犬訓練の技術を学び、この分野への探究心が強くなりました。ほとんどプライベートな時間はありませんでした。これまでの走り続けた日々の結果が今の進路につながったと思います。

仕事と家庭／生活のバランス

研究室で管理している犬たちも家族同然ですので、ほぼ年中無休で研究室か飼育棟にいます。仕事に偏った生活になっています。しかし、家族のサポートなしに仕事できないので、家族への感謝を忘れずに、もう少し家族との時間を増やしていけたらと思っています。

進路選択に対してのメッセージ

学生のときは、興味のあることにチャレンジし続けることが大切だと思います。夢を叶えるために遠回りしても、それがいつか自分の糧になっていることに気づけるとときがきます。あれもこれもと欲張りすぎると疲れてしまいますが、自分のモチベーションが維持される状態を自分で見極め、努力し続けると結果はついてくると思います。

◆プロフィール

高校卒業→麻布大学獣医学部動物応用科学科 卒業→同大学獣医学研究科動物応用科学専攻 博士前期課程修了・修士（応用動物科学）→De Montfort University, Faculty of Applied Sciences, Master of Science修了・MScIS (Animal cognition) →麻布大学獣医学研究科動物応用科学専攻 博士後期課程修了・博士（学術）→専門学校 非常勤講師→ドッグスクール主宰（家庭犬のしつけ・問題行動修正、警察犬育成）→私立短期大学 非常勤講師→日本大学生物資源科学部→University of Lincoln, visiting researcher→現職



大学教員

数年先のなりたい自分をイメージしよう！

若林素子（日本大学生物資源科学部食品ビジネス学科 准教授）

仕事の内容とやりがい

教育と研究に取り組んでいます。授業は「調理学」「食物学実験」などを担当しています。研究は「おいしさ」を科学的に明らかにすることを大きなテーマに、特に食品のフレーバー分析や香り成分の酵素的生成、香り成分の立体構造と香り特性の関連などを調べています。複数の研究所や大学勤務を経験する中で、大学の校風や学生のカラーの違いを面白く発見し、新たな出会いを楽しんでいます。自らの知恵や努力で未知の事実を見出す喜びを、学生にも感じてもらえるよう、努めているつもりです。

進路決定のきっかけ

高校の生物教員の父の影響で幼い頃から将来は白衣を着て仕事をするつもりでした。大学受験では医学部薬学部と理学部生物が家政学部食物かで迷いました。高校理系クラスで少数女子の立場が弱かったことも影響し、女子大に行こうと決め、お茶大食物を選びました。当初から研究者志望で修士に進学し、その後は経済的自立のため大学助手の道を選び、助手の任期終了時に受験して東京都の研究員になりました。民間企業研究者の夫のドイツ留学に同行すべく東京都を退職し、帰国後大学教員となりました。

仕事と家庭／生活のバランス

大学助手時代に共同研究者として知り合った夫は食品企業の研究者です。子供がいなためお互いに平日はワーカー辺倒です。その分休日は家事全般を行う必要があり、夫が積極的に掃除などを担当してくれています。留学先のミュンヘン工科大学では一つのテーマに夫婦で取り組み、ワークとライフの区別が全くなかった2年間を過ごしました。研究成果も出て、このままずっと続けたいと思ったものです。夫には公私ともに助けられていて本当に感謝しています。

進路選択に対してのメッセージ

学生時代には多くの悩みや迷いがあると思いますが、その時に目の前の「今」だけを考えるのではなく、1年あるいは2年後に「自分がこうあっていたい」という姿を想像してみることをお勧めします。そうすれば、その実現のために今何をすべきかが自然に決まってきます。大学には目指すべき素敵な先生方がいるので、アドバイスを聞いてみるのもよいと思います。いろいろな意見を聞いたうえで、最終的に自分で決断することが大切だと思います。是非素晴らしい自分の道を切り開いてください！

◆プロフィール

愛媛県公立高校→お茶の水女子大学家政学部食物学科→同大学院家政学研究家食物学専攻修了→同学部同学科助手→東京都研究員→ドイツミュンヘン工科大学客員研究員→私立短大食物栄養専攻准教授→私立大学管理栄養学科准教授（在職中）→お茶の水女子大学大学院博士後期課程にて博士（理学）→現職



かけがえのない人生を生きよう

増田しのぶ（日本大学医学部病態病理学系腫瘍病理学分野 教授）

仕事の内容とやりがい

病理医の仕事には、“病理”という病気の理（ことわり）を明らかにする、という研究・学問的側面と、病理診断という臨床的側面があります。いずれにしても、顕微鏡を通じて、身体の中の組織を観察し、病気の状態を診断します。臨床現場では、治療をすすめるかしないか、どのような治療をどの程度行うか、の判断の根拠を提供します。よって、いわゆる検査の一つではなく、最終診断としての役割を担っています。“診断は治療のために”をモットーに日々研鑽しています。

進路決定のきっかけ

臨床研修中、clinicopathological conference (CPC) で担当した症例が、悪性リンパ腫でした。解説してくださった病理の先生が、リンパ腫細胞の電子顕微鏡写真を見せてくれたのが、とても印象に残っています。モノクロの写真で、細胞内小器官も明瞭に観察でき、とても美しく一つの小宇宙のように感じられました。病理で頑張って勉強すると、病気のすべてがわかるのではないかと、という気持ちになり、やりがいを感じたのがきっかけです。

仕事と家庭／生活のバランス

医学部を卒業してから、優先順位が一番が仕事、というスタンスは変わっていません。しかし、年齢を重ねるうちに、責任をもって仕事をしっかり行うためには、毎日の生活が大切、という当たり前のことを実行するようになってきました。夫は異業種の人間ですので、わたくしの社会的常識を保ち、精神安定剤となり、毎日の生活を支え、時に遊び友達として存在する。つまり、かけがえのない人であり、この上なく感謝しています。

進路選択に対してのメッセージ

まず、自分がやりたいことが何かをよく考える必要があります。人生は一度きりですので、遠慮は要りません。しかし、大切なことは、今の課題に全力で取り組むことです。遠い先をみても、気が遠くなるだけです。今の課題を乗り越えると、次の課題が見えてきます。小川が次第に大きな川になるように、一つの山を登ると次の山脈が見えてくるように、進路は自然に決まっていきます。

◆プロフィール

弘前大学医学部卒業 → 臨床研修 → 東海大学医学部付属病院病理診断科（結婚） → 東海大学医学部基盤診療学系病理診断学領域 助手・講師・准教授 → 現職



大学教員

仕事に甘えは禁物！

中井俊子（日本大学医学部循環器内科診療 教授）

仕事の内容とやりがい

循環器科、特に不整脈、さらにその中でもペースメーカ、植込み型除細動器など心臓デバイス治療を専門としています。最近は慢性心不全におけるペースメーカ治療に携わり、心不全の患者さんがこの治療によって笑顔を取り戻し、元気になっていく姿を見て仕事のやりがいを実感しています。「患者さんのQOL（生活の質）の向上のためのデバイス治療」をモットーに研究・臨床に従事し、講演や植込みの技術指導などの活動を通してこの治療の普及を進め、忙しく楽しく充実した毎日を過ごしています。

進路決定のきっかけ

私は、子供のころからとても頭が悪く、中学校まで本当に「出来の悪い子」でした。高校受験の時に自分の入れる高校がないことに気づき慌てて勉強し始めたことを思い出します。一方、姉はとても頭が良く、いつも私のお手本でした。そんな姉を慕っていたので、姉が獣医学部に入ったから私は人間の医者になる、というような単純な動機で医学部に入りました。また、医学生時代に勉強した心電図がまったくわからず、苦手意識が強かったので、これを克服しようと思って循環器科を選択しました。

仕事と家庭／生活のバランス

夫は大学の同級生で、医師になって3年目に結婚しました。2人ともあまりに多忙で会うこともままならず、結婚すればいちいち約束して会うようなことをせずに済む、という合理的な結婚でした（笑）。不思議と私の中に子供をもつという計画はまったくなく、ただずっと仕事を続けたいという思いで今まで過ごしてきました。夫も同じ考えだったのか私の気持ちを察してか、私達は子供をもつかどうかで悩んだことはありません。忙しいときは家事を無理にこなそうとせず、二人で夕食を楽しんでいます。

進路選択に対してのメッセージ

子育てや家事などの負担はやはり女性に多く、女性医師にとって、日々進歩する医学の知識をアップデートしていくことは容易ではありませんが、出産後もぜひ仕事を続けてほしいと思います。ただし、働く限り甘えは禁物で、妊娠・出産についても周囲に迷惑をかけないような配慮が必要です。産休は定められた権利ですが、研修中や出張中に突然休んで穴をあけてしまうことは医局には大変迷惑です。今後の女性医師の活躍のためにも、決められたルールの中できちんと任務を果たすことが重要です。

◆プロフィール

日本大学医学部 → 循環器内科入局＜結婚＞（医学博士）→ 米国カリフォルニア大学心臓電気生理学部門研究員として留学。この時、心臓デバイスの開発に携わる → 帰国し日本大学医学部循環器内科助教 → 研究所准教授 → 現職



Think Zebra!

相澤(小峯)志保子(日本大学医学部病態病理学系微生物学分野 准教授)

仕事の内容とやりがい

医師免許を取得後に産婦人科医となりました。その後、大学院で感染制御学を専攻し博士号を取得しました。大学院を修了後に現職につき、現在の仕事の内容は、研究と教育、病院での診療です。新規結核ワクチンの開発、妊娠の免疫学維持機構の解析などを主に研究しています。医師として研究を続けて行く上で最も強みになるのは臨床経験(患者さんを診療すること)だと思います。現在でも、週に1日は病院での診療の仕事をしています。教育は主に医学部の2年生の微生物学の講義や実習、大学院生の研究の指導を受けて持っています。

進路決定のきっかけ

人間の身体のしくみ、病気とはなにか、ということに興味があったので、医学部への進学を決めました。医学部での6年間で法医学や眼科学などに興味を持ちましたが、6年生のはじめにHIVの母子感染の研究にたずさわる機会を頂き、研究をする医師になりたいと思い、進路を決めました。そのときの指導教員に大学院でも、そして現在もボスとして引き続きご指導をいただいています。幼い頃、マリー=キュリーの伝記が大好きで、何度も読み返していたことも、現在の自分につながっているのかもしれません。

仕事と家庭/生活のバランス

医師になってから、美術館巡りが趣味になりました。時間が空いたときにふらっと出かけて自由に楽しめるのが魅力です。2009年には美術検定1級に合格し、アートナビゲーターとなりました。他のアートナビゲーターと話をするのはとても刺激になります。また、学生時代は室内楽アンサンブルやオーケストラでチェロを弾いていましたが、今も学生時代の仲間や学会の先生方と演奏する機会があります。仕事以外のプラスαは人生の幅を広げてくれると思います。

進路選択に対してのメッセージ

自分だけで考えて決めるよりも、いろいろな経験をもつ大人たちの話を聞いてみて下さい。自分が想像しなかった未来が広がっているかもしれません。女性であることを言い訳にはいきません。強い好奇心を持って、毎日を過ごして下さい。

◆プロフィール

埼玉県立熊谷女子高校卒業後、日本大学医学部に進学。医師免許取得後、日本大学付属板橋病院、社会保険横浜中央病院にて臨床研修(産婦人科)。日本大学大学院医学研究科感染制御学専攻。博士号(医学)取得。大学院修了後、日本大学医学部病態病理学系微生物学分野助手、助教を経て2014年より現職。産婦人科専門医。



大学教員

人生を楽しむ！！～必ず道は開ける～

石毛美夏（日本大学医学部小児科学系小児科学分野 専任講師（日本大学病院 小児科外来医長））

仕事の内容とやりがい

小児科、特に先天代謝異常症という稀な病気が専門です。大人と違い、子どもは生死にかかわる重病や慢性的な病気を患うことはほとんどありません。先天代謝異常症は赤ちゃんの頃から生涯付き合わなければならない病気であり、ときに死に直面します。愛する我が子が診断されたときは全てのご家族が悲嘆にくれますが、それを支えて乗り越えともに戦い、前向きに治療を行えるように全力でサポートします。患者であるこどもの成長をご家族とともに喜べることで、こどもたちの笑顔がやりがいです。

進路決定のきっかけ

女性は資格をもち結婚・出産に関わらず一生涯続けられる仕事を選ぶべきという両親の教育方針で育ち、医師という仕事を選びました。学生時代から漠然と研究もしたいと考え、研修修了後に大学院に進学しました。最初の研究テーマが面白くて続けるうちに再生医学の道に入り、博士号取得後も研究を続けました。大学院卒業後に出会った先天代謝異常症の児との経験が小児科医としての専門を決めてくれました。研究や臨床を介して出会った大勢の人が私の人生に多大な影響を与えており私の財産です。

仕事と家庭／生活のバランス

夫は先天代謝異常症の診断や治療に関わる特殊な検査を仕事にしています。そのため、仕事でも家庭でもパートナーであり、とても理解があるため恵まれています。生活は、出産まではかなりワーク中心の生活だったのですが、今は子供が小さいためライフのウェイトが増えています。保育園以外にシッターや病児保育など使えるサービスはすべて使って仕事の時間を確保していますが、早く帰宅するようになった分、どのようにワークを要領よくこなしていくかが現在の課題です。

進路選択に対してのメッセージ

物事は始めてみなければ何もわからず、何も変わりません。悩んでいる間に時間がすぎてタイミングを逃してしまうこともあります。今、あなたにやりたいことや目標が一つでもあれば、できるだけ早くそれに向かって進んで下さい。その結果がよければ最高に幸せであり、もし最大限の努力をしても当初の理想や予想と異なる状況になってしまったら、素直に周囲に助けを求めて早くやり直してください。人生は長く、方向転換はいつでも可能で、必ず道は開けます。アクティブに人生を楽しみましょう！

◆プロフィール

愛知県立明和高等学校、日本大学医学部、日本大学大学院医学研究科(医学博士)。日本大学小児科研修医、同専修医、東海大学医学部再生医療科学ポスドク。2007年(駿河台)日本大学病院小児科助教(出産＋産休2回)、2016年より現職。元気いっぱいな男の子2人(2歳、5歳)の母。現実の子育ては教科書通りにはいかないことに悩む小児科医です。



「今を生きる」

谷 眞弓（日本大学医学部乳腺外科（日大病院）講師（専任扱））

仕事の内容とやりがい

12年前外科が臓器別になった時乳腺外科を選択しました。それまでは消化器外科、松戸歯学部で顎顔面外科として仕事をしていました。乳腺内分泌外科としたのは、乳腺でかかられる方が女性医師を必要としていると感じたからです。

また日本大学病院では化学療法室長を兼任し緩和医療チームとして緩和にも関わっています。頼まれたことをチャンスとしてなるべく断らないようにしてきたため、仕事に追われ忙しくしていますが、他職種の方と関係を持って診療にあたっています。チーム医療の必要性を実感している毎日です。

進路決定のきっかけ

実は医師になるつもりはありませんでした。医学系には進もうとは考えていましたが特に目標もなく、消化器外科を選択したのも、BSTの時鍋パーティに誘われて楽しそうだと思ったのがきっかけです。

いつも直感で決めてきている気がします。その時に興味を持ったことをしてみる、が大事だと思います。

仕事と家庭／生活のバランス

結局、結婚していません。結婚して子育てをしながら仕事をされている方を尊敬しています。今からでも結婚したい、いやパートナー。自分を持っている方との出会いを大切にしたいと思っています。

両親は健在ですが、介護問題が迫っています。同窓会で女性ネットワーク委員会に関わっており、子育てや介護をしながら仕事を続けられるような情報を発信していきたいと願っています。

進路選択に対してのメッセージ

今、自分が一番大事に考えていること、興味があることを始めることが大事だと思います。一度きりの人生ですから、欲張って行きましょう。そのためには体力が必要ですから、若いうちに体力をつけて頑張ってください。

◆プロフィール

都立小石川高校→日本大学医学部→同大学院→第三外科入局→相模原協同病院、国立甲府病院、銚子市立病院出張→松戸歯学部顎顔面外科→日本大学乳腺内分泌外科

